

戦国時代のはじまりと終わりを語る

韮山城跡



北西上空より見た韮山城跡

韮山城跡は、戦国時代の北条氏（後北条氏・小田原北条氏）の祖である、伊勢宗瑞（通称北条早雲）が築いた城の跡です。伊豆半島北部に広がる田方平野の東部にあり、富士山・箱根山を望む丘陵に立地しています。

明應2年（1493）、駿河今川氏の客将であった伊勢宗瑞は、伊豆韮山の堀越公方を攻め、伊豆に進出しました。伊豆国を平定した宗瑞は、堀越御所の東側1.6kmにある丘陵を中心に韮山城を整備し、自らの本城と決めました。宗瑞の死後、2代目の氏綱は北条氏と改姓し、相模國小田原に本拠の城を移したため、韮山城は伊豆地域を治める支城となりました。しかし、韮山城は、今川氏・武田氏など西側大名に対する防御拠点として、重要な城でありました。

天正18年（1590）3月、豊臣秀吉の小田原攻めでは、4万4千人の軍勢に囲われましたが、3ヶ月にわたる籠城戦の末、小田原城に先だて、6月に開城しました。北条氏滅亡後、韮山城は徳川氏の城へ変わり、関ヶ原の合戦後の慶長6年（1601）に廃城になりました。廃城後の韮山城は、韮山代官の御囲地となったため、大きく改変されることなく、戦国時代の姿を今に伝えています。

韮山城跡は、北条氏の最初の城であるとともに、その終焉を語る重要な遺跡です。したがって、周辺の町場や街道を含めて、韮山城跡の調査・研究を進めることによって、北条氏の約90年間にわたる領国形成の変遷を明らかにすることができるでしょう。また、周辺に点在する付城跡群も、天正18年における豊臣軍との攻防の姿を視覚的に復元するための、貴重な遺跡といえます。